

CSDB

Chugoku-Shikoku Defense Bureau

中国四国防衛局広報誌



特集 海上自衛隊/米海兵隊岩国航空基地
フレンドシップデー2026



中国四国防衛局

Vd. 72

Jun. 2026

目次 Contents

特集

海上自衛隊/米海兵隊岩国航空基地 フレンドシップデー2026

- 2 吉田防衛大臣政務官による岩国市訪問
- 5 日本原演習場における米軍単独訓練の実施
- 6 徳島飛行場周辺における第一種区域の見直し（住宅防音関係）
- 8 広報活動（自衛隊記念行事、フレンドシップデー）
- 9 音響測定艦「びんご」引渡式及び自衛艦旗授与
- 10 輸送艦「あまつそら」「あおぞら」引渡式及び自衛艦旗授与
- 11 補助事業による完成施設の紹介（いこいと学びの交流テラス）
- 12 自衛隊等特有の施設の建設工事～調達部の業務紹介
- 13 入省式（令和8年4月1日）
- 14 令和8年度 初任者研修
人事異動のご挨拶（令和8年4月1日付）
退職者表彰（令和8年3月31日）
- 15 中国四国防衛局 企画部のご紹介
中国四国防衛局 職員日記（企画部）

CSDB
Chugoku-Shikoku Defense Bureau



中国四国防衛局

Vd. 72

Jun. 2026

編集・発行
中国四国防衛局
(広報委員会編集)

〒730-0012
広島県広島市中区
上八丁堀6-30

Tel
082-223-7109

中国四国防衛局HP



中国四国防衛局
広報
X (旧Twitter)
@chushiDB_koho



表紙について

令和8年5月3日（日）
海上自衛隊/米海兵隊岩国航空基地
フレンドシップデー2026
「チーム・ファストラックス（アメリカのスカイ
ダイビングチーム）によるパラシュート降下」



海上自衛隊/米海兵隊 岩国航空基地フレンドシップデー2026 令和8年5月3日（日）

第5空母航空団による展示飛行



F-35B 戦闘機（写真左）



CMV-22B オスプレイ輸送機（写真右）



海上自衛隊US-2 救難飛行艇（写真左）

特集 海上自衛隊／米海兵隊 岩国航空基地フレンドシップデー2026

最新鋭ステルス戦闘機F-35BやCMV-22Bオスプレイ、海自救難飛行艇US-2などの航空機が多数地上展示されるとともに、訓練展示などが披露されました。
あいにくの雨天にもかかわらず約4万5千人（主催者発表）の家族連れの地元の方々、航空ファンが訪れ、海兵隊航空部隊と米空母航空団による展示飛行、陸・海・空各自衛隊の航空機による展示飛行を楽しんでいました。



CMV-22Bオスプレイによる展示飛行



海上自衛隊第31航空群 航空群 大久保群司令
米海兵隊岩国航空基地 ロスマン司令官



米海兵隊による訓練展示



陸自V-22オスプレイ輸送機



空自UH-60J救難ヘリコプター



海自SH-60J哨戒機



OP-3多用機



P-8哨戒機



空自C-2輸送機



E-2D早期警戒機



空自F-2戦闘機



F/A-18戦闘機





吉田防衛大臣政務官による岩国市訪問

令和8年4月22日、吉田防衛大臣政務官が山口県岩国市に視察に訪れ、海上自衛隊第31航空群において、大久保群司令から施設概要及び配備されている航空機などの説明を受けました。また、米海兵隊岩国航空基地において、ロスマン司令官から基地の概況説明を受け、基地内を視察しました。

基地視察後、岩国市役所を訪問し、福田市長及び片岡議長と面談を行いました。

吉田政務官から、岩国市立美和病院への初任実務研修医官の派遣等について説明を行うとともに、日頃より日米同盟や自衛隊及び米軍の活動について深いご理解とご支援をいただいていることへの感謝をお伝えしました。



米海兵隊岩国航空基地視察(写真:米海兵隊提供)



海上自衛隊第31航空群視察



福田岩国市長、片岡岩国市議会議長との面談



吉田政務官からの説明

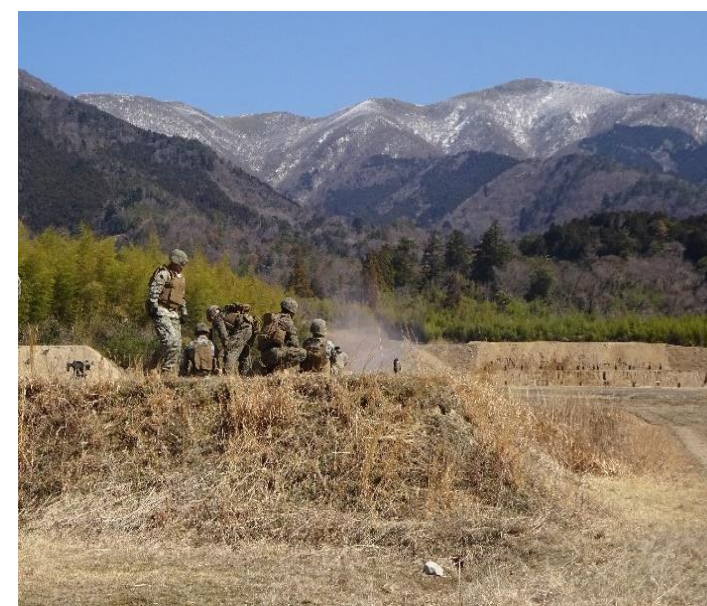


日本原演習場における米軍単独訓練の実施

令和8年3月13日から19日までの7日間、岡山県の陸上自衛隊日本原演習場において、米海兵隊岩国航空基地を拠点とし、主に地上部隊への車両整備支援を行う第36戦闘補給部隊による単独訓練が実施されました。本訓練は、平成30年10月に初めて実施されて以降、今回が8回目となります。

同部隊は、日本原駐屯地内に設置した指揮所を拠点として演習場での射撃訓練、一般訓練（パトロール訓練、車両の機動訓練、基本救護訓練）を実施しました。

当局及び陸上自衛隊は、訓練に先立ち行われた米軍による現場確認において、同部隊の訓練責任者に対し、訓練にあたっての注意事項等を伝達するとともに、地域の皆様の安全・安心を第一に、日本原駐屯地内に現地連絡本部を設置、24時間態勢で延べ約130名の連絡員を配置し、地元自治体等との連絡調整、車両による演習場外周の巡回、夜間の宿営地の巡回などを行いました。



射撃訓練



中国四国防衛局の現地連絡本部



関係自治体首長等による現地視察（左：光井津山市長、右：奥奈義町長）





徳島飛行場周辺における第一種区域の見直し(住宅防音関係)

徳島飛行場周辺においては、航空機騒音による障害の防止又は軽減するため、第一種区域指定の際（昭和57年3月31日）に所在する住宅を対象に、その所有者等が行う防音工事に対して、補助金を交付してきております。

第一種区域が指定された後、滑走路の移設などによる騒音状況の変化に伴い、同区域の騒音実態を把握するために必要な騒音度調査を実施しました。

調査の結果、第一種区域の指定基準値である^{エルデン}Lden62デシベルの騒音コンター内には、住宅が所在していなかったことから、**現在の第一種区域を全て解除**することになりました。



出典：地理院タイル（淡色地図）を加工して作成

●第一種区域の解除については、令和8年5月27日に告示され、令和9年12月1日に適用となります。

●経過措置として、**令和9年11月30日までに住宅防音工事の希望届を受け付けた場合は、従来の工事内容で防音工事を実施することができます。**

※書類の審査や現地調査の結果によっては、防音工事を実施できない場合があります。



▼特設ページ



お問い合わせ窓口（コールセンター）

050-1780-2639

※土・日・祝日・年末年始（12/29～1/3）除く
午前9時～午後6時

※Ldenとは、航空機騒音に係る環境基準（環境省告示）に用いられている、航空機が飛行した際の騒音値、いわゆる「デシベル」値のみならず、地上騒音（航空機が誘導路を走行する際に発生する騒音、エンジン試運転による騒音など）も評価の対象となっています。



広報活動（自衛隊記念行事、フレンドシップデー）

当局では、防衛省・自衛隊の各種政策や活動をより広く国民の皆様を紹介するため、当局管内の基地・駐屯地の記念行事等において、広報ブースを設置し、来場した方々に防衛省・防衛局の採用パンフレット、各種装備品のポストカード等を配布するとともに、デジタルサイネージを利用した広報活動を実施しています。

今後とも、防衛政策や自衛隊の活動等、広く知っていただけるように、積極的に広報活動に取り組んでまいりますので、ご来場の際には当局広報ブースにお気軽にお立ち寄りください。

○陸上自衛隊善通寺駐屯地での広報活動（令和8年4月26日）



陸上自衛隊善通寺駐屯地において開催された、「第14旅団創設20周年及び善通寺駐屯地開設76周年記念行事」で広報ブースを設置しました。

当日は、あいにくの天気ではありましたが、グリーンインパルスによるバイクアクロバットや市中観閲行進が行われることもあって、朝早くから多くの方が来場されていました。観閲式では、第14旅団の隊員が整然と行進し、音楽隊の演奏が式典を盛り上げ、節目の創設20周年ということもあり、式典には特別な緊張感と祝賀ムードが漂っていました。

広報ブースでは、当局で準備したパンフレットやポストカード等が見る見るうちに無くなり「後でじっくり読みたい」などと言ってくる方もおり、広報資料として高い関心を集めました。

○岩国航空基地での広報活動（令和8年5月3日）

岩国航空基地において開催された、「フレンドシップデー2026」で広報ブースを設置しました。

こちらも雨の中、朝早くから、多くの方が来場され、一部の航空ショーの演目が雨で視界不良のため中止となりましたが、F35ライトニングIIによる飛行などが披露され、雨具などを着込んで、航空ショーを楽しんでいる様子が見られました。

広報ブースでは、特に若年層や家族連れに関心が高く、資料を受け取った後に、当局職員に防衛省の採用や職場環境などについて、熱心に質問を行う来場者の方がいらっしゃいました。また、航空機や艦艇などの装備品の写真を印刷したポストカードは幅広い年代に人気があり、採用パンフレットとあわせて手に取る来場者が多く見受けられました。



デジタルサイネージを利用した広報



音響測定艦「びんご」引渡式及び自衛艦旗授与

令和8年3月6日、岡山県玉野市の三菱重工業マリタイムシステムズ株式会社玉野本社工場において、当局玉野防衛事務所が監督・検査を担当している「ひびき」型音響測定艦の4番艦となる令和4年度計画音響測定艦「びんご」の引渡式及び自衛艦旗授与式が行われました。

本式典は、防衛省から宮崎防衛副大臣、國見海上幕僚副長、伊藤防衛装備庁長官官房装備官（海上担当）、深和中国四国防衛局長、三菱重工業株式会社から江口防衛・宇宙セグメント長、三菱重工業マリタイムシステムズ株式会社から田尾社長をはじめ約300名が出席して粛々と執り行われました。

引渡式では、江口セグメント長から宮崎防衛副大臣へ引渡書が、宮崎防衛副大臣から江口セグメント長へ受領書が手渡された後、「びんご」のマストに掲揚中の三菱重工業株式会社の社旗が降下されました。

引き続き、自衛艦旗授与式では、宮崎防衛副大臣から二葉艦長へ自衛艦旗が授与され、呉音楽隊の「君が代」の吹奏に合わせて、「びんご」の艦尾に自衛艦旗が掲揚されました。

その後、二葉艦長は、宮崎防衛副大臣に出港報告を行い、多くの防衛省、会社関係者に見送られながら「びんご」は出港していきました。

「びんご」は、基準排水量2,900トン、全長約67m、幅約30m、深さ約15m、喫水約7m、速力約11ノット（約20km/h）、乗員数は約40名です。波浪の影響を受けにくい半没水型双胴船で、荒天中でも安定した海中の音響情報の収集が可能であり、広島県呉市を母港とする第1音響測定隊に配備されました。



引渡書、受領書の授受



自衛艦旗の授与



自衛艦旗掲揚



出港する音響測定艦「びんご」



輸送艦「あまつそら」「あおぞら」引渡式及び自衛艦旗授与

令和8年3月31日、海上自衛隊呉地区において、輸送艦「あまつそら」、「あおぞら」の引渡式及び自衛艦旗授与式（執行者：遠藤陸上自衛隊中部方面総監）がとり行われました。

本式典には、吉田防衛大臣政務官、荒井陸上幕僚長、大橋防衛装備庁装備官（陸上担当）、深和中国四国防衛局長、塚越呉地方総監部幕僚長、内海造船(株)取締役寺尾社長ほか関係者が出席しました。

令和5年7月に防衛装備庁と内海造船(株)間で契約を交わし、令和7年3月に起工、同年10月「あまつそら」、11月「あおぞら」が進水し、翌年3月27日「あまつそら」、3月30日「あおぞら」が内海造船(株)から防衛省に引き渡され、3月31日吉田防衛大臣政務官から自衛艦旗を授かり就役の運びとなりました。令和7年3月新編の「自衛隊海上輸送群」へ配備された「あまつそら」、「あおぞら」は陸・海・空の部隊や装備品等の輸送任務を専門的に担い、今後の活躍が期待されます。



栄 誉 礼



自衛艦旗授与



自衛艦旗掲揚



訓 示



艦内巡視



記念撮影



補助事業による完成施設の紹介 (いこいと学びの交流テラス)



写真提供：岩国市

令和8年4月19日、山口県岩国市黒磯町において整備が進められていた「いこいと学びの交流テラス」の完成記念式典とオープニングイベントが行われました。

岩国市は、旧岩国医療センター跡地に、防衛省の補助金を活用し事業費112億円（うち防衛省補助金約84億円）をかけ、令和3年度に工事着手し整備を進めてきました。

当該施設は、テラス状の地形を生かし、福祉・科学学習施設を中核とする、ふれあい交流施設や自然交流施設、健康増進施設などが配置され、幅広い年齢層が気軽に利用できる総合的な交流拠点として整備されました。

また災害時には、市民の方々の避難場所となるため、自家発電装置や備蓄倉庫が整備され、大規模災害時には災害ボランティアセンターの設置運営ができる機能を有しています。

今後も中国四国防衛局は、防衛施設と地域社会の調和を図り、防衛施設周辺における地域にお住まいの皆様の生活環境の改善に寄与するために、各種施策の実施に取り組んでまいります。



写真提供：岩国市

オープニングイベントが行われ、来場者で賑わう科学学習施設内



写真提供：岩国市

科学展示「電磁石フィッシング」
科学学習施設内で、コイルに電流を流すと磁力が発生する仕組みを体験している子どもたち



自衛隊等特有の施設の建設工事～調達部の業務紹介

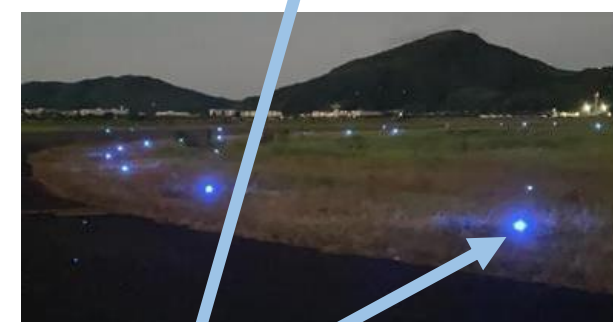
調達部においては、自衛隊駐屯地・基地等や在日米軍基地内の建設工事を行っています。その対象の一つである空港施設は、戦闘機、輸送機、警戒機など様々な航空機を運用する上で、必要不可欠な施設です。

今回は空港施設における「航空灯火」の建設工事を紹介します。

航空灯火とは灯光、色彩、形象により航空機の運航を支援するもので、近年は、航空灯火をLEDに換装する工事などを空港施設を運用していない夜間に行っています。



滑走路から滑走路末端を見た写真



滑走路の外から滑走路の末端を見た写真



【誘導路灯】

地上走行中の航空機に、誘導路及びエプロン（駐機場）の縁を示すために、誘導路の両端及びエプロンの縁に沿って設置します。光色はご覧のとおり青色です。



【滑走路末端灯】

滑走路の進入末端を示すために滑走路の末端に沿って等間隔に設置します。滑走路進入端を示す灯火の光色は緑色、滑走路終端を示す灯火の光色は赤色です。

この工事の魅力は夜間に点灯した航空灯火を間近で見れることです。
とても・・・きれいです。



入省式(令和8年4月1日)



暖かな風が吹き始め、春の訪れを感じる令和8年4月1日、当局に新規採用職員16名が仲間入りしました。
入省式では新たなスタートを踏み出す新規採用職員に対して局長から歓迎と激励の言葉が伝えられるとともに、式後には局長との懇談会を温かな雰囲気のなか実施しました。
防衛省・自衛隊に課された使命を共に果たすべく切磋琢磨し、困難に直面したときは互いに助け合いながら様々なことに挑戦し、たくましく成長していくことを期待しています。

1年目職員の実際に勤務してみたの心境

初めは分からないことばかりでしたが、ひとつひとつ丁寧に教えていただき日々勉強していく中で意外と早く慣れることができました。出張では自衛隊施設だけでなく、中国四国地方の様々な場所に赴くため人と関わる機会がとても多いと感じました。入省してまだ間もないですが、不安に思うこともなく楽しく仕事に取り組んでいます。(企画部・事務官)

部署によって業務が大きく異なり、これから様々な経験ができると思いました。今の部署では責任のある仕事や専門知識が必要になる業務もありますが、優しい上司や先輩方のおかげで、やりがいを持って取り組んでいます。(企画部・事務官)

上司・先輩方の担当されている自衛隊基地の建物の完成検査に同行して、実際に建物が完成した現場へ赴きました。完成検査では細部にまで部隊の要望が反映されているのを実感しました。自分自身の業務への理解が深まるとともに、これからも先輩方から業務を勉強したいと感じています。(調達部・技官)

上司や先輩に恵まれ楽しく仕事をする事ができています。現在は事業や局運営に必要な経費の支払関連の業務を行っています。早く仕事内容を覚え、力になれるよう頑張っていこうと思います。国を守る仕事に就くことができて良かったです。(総務部・事務官)



令和8年度 初任者研修



令和8年4月2～3日の間、当局職員としての基礎知識の習得を目的とする、令和8年度初任者研修を実施しました。当局が担う業務についての講義や局長講話のほか、先輩職員との座談会を行い、業務への理解と職員同士の交流を深めました。

研修生からは、「業務のベースを学べた」「自分の配属課以外の業務も学ぶことで、相手の仕事のイメージを持ちながら業務に臨めると感じた」といった意見が寄せられ、とても有意義な研修となりました。



人事異動のご挨拶(令和8年4月1日付)

春の人事異動により、幹部が交代しました。
引き続き地域の窓口として業務に取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。



退職者表彰(令和8年3月31日)

令和8年3月31日、当局を退職される3名に対し、長年にわたる多大な功績と日頃のご尽力に対し深く感謝の意を表し、局長表彰状を授与いたしました。3名の方々の今後ますますのご健勝とご多幸をお祈りいたします。

(前列左より)
脇 治夫(企画部防音対策課)
原 尚希(調達部)
井門 賢一(調達部事業監理課)





中国四国防衛局 企画部のご紹介

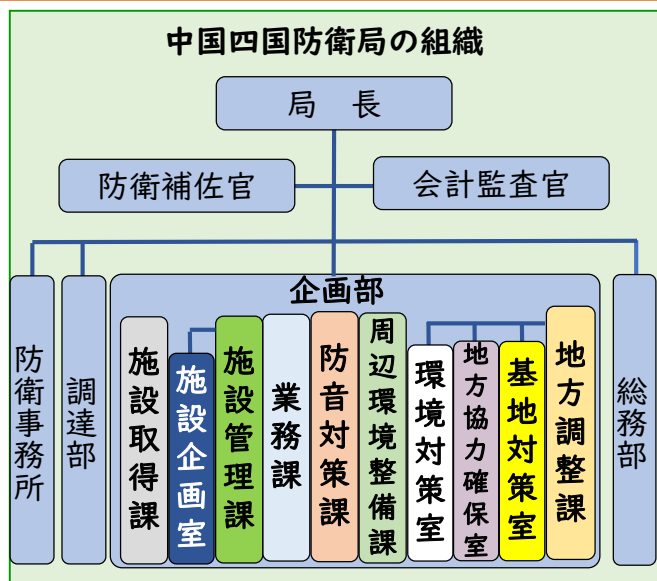
企画部は、企画部長の下に6課4室で構成されています。

地方防衛局は、日本の防衛、東アジア地域の安定のために日々活動している全国の駐屯地、基地など300を超える自衛隊施設や在日米軍の基地等の活動が円滑に行われるよう、その基盤を整備し、地元の理解を得るとの使命を担っています。

このうち、企画部においては地元の理解や協力を得るための各種施策を行っております。

具体的な業務として、

- 安全保障環境に応じた新たな部隊の配備や新しい装備品の導入に伴う防衛施設の建設、訓練や基地の運用（戦闘機の離発着など）に伴う地元説明の実施
- 防衛政策や自衛隊の活動等について理解を得るため、防衛問題セミナー等において、市民の方々や地方公共団体へ広く情報提供や説明の実施したり、米軍基地の周辺住民の方々と在日米軍人・軍属及びその家族との信頼関係を築くため、スポーツ大会や文化体験などの日米交流事業の企画・開催
- 航空機騒音などの不安を和らげるための地元自治体等による道路整備や河川改修、防音設備の補助事業等の実施
- 在日米軍による事件・事故などが発生した際の情報収集や防衛本省や関係地方公共団体等へ情報伝達、事故等によって身体や財産に損害を与えた場合には、被害者に対する損害賠償などの実施
- 自衛隊・在日米軍が防衛施設として使用するための土地の取得や管理などが挙げられます。



中国四国防衛局 職員日記 (企画部地方調整課)

私は、令和7年度に語学専門職で入省し、2年目を迎えました。

主に、米軍単独訓練を円滑に実施するための地元及び米軍との調整や騒音苦情の取りまとめなどを担当し、語学専門職として米軍との会議通訳や資料の翻訳を行っています。

今年3月に行われた日本原米軍単独訓練では、事前調整や現地で行われる防衛局、自衛隊及び米軍の日々調整会議の通訳を行いました。現地では想定外のことが発生する等イレギュラーな対応が必要となる場面もありましたが、上司と密にコミュニケーションを取りながら、柔軟に対応することができました。

入省1年目は、慣れないことも多く、不安を感じる場面もありましたが、周りの皆さんに支えていただきながら多くの学びを得ることができました。

また、語学専門職として専門用語を用いた通訳など、これまで経験したことのない業務にも携わる機会が多く、覚えることは多かったものの、その分大きな成長につながったと思います。

今後もさまざまな業務を経験する中で、一つひとつを学びとして積み重ねていければと思います。



(地方調整課 藤野 蓮佳)